

平成30年度 自律改革取組一覧

No.	事項名	自律改革取組前の状況 (現状・課題)	検討・分析の進め方	取組の内容及び成果 今後の方向性
1	SNS等を活用した情報発信	公式SNSに加え、イベントごとのアカウントがあるが、一体として管理を行っておらず、アカウント同士の連携(リツイート、シェア等)ができていないため、効果的な情報発信ができていなかった。	SNSの利用割合が高い若手職員による検討会(PT)を設置し、局のSNSに求めるものは何か、率直な意見を聞き、あるべき姿を整理し、それに向けて何ができるのかについて議論を行った。	パラスポーツのファンサイト「TEAM BEYOND」において、インフルエンサーを活用した情報発信を行った。PTで出た意見について、できるところから着手していくとともに、今後、検討した活用案をもとに、より効果的な情報発信を行っていく。インフルエンサーを活用した情報発信については、各事業における活用を推進していく。
2	組織委員会との連携	都、組織委員会、関係団体がそれぞれ実施する広報について、連携が不十分な点があった。	組織委員会等と連携した広報戦略を策定し、局内においても定期的な広報連絡協議会を開催する。	広報戦略及び広報担当者会議を活用し、組織委員会や局内等関係部署との連携を強化し、戦略的な広報を展開していく。
3	局ポータルサイトの活用による情報共有	局ポータルサイトの活用、電子データによる局内情報共有が十分に図られていない。	局内情報共有に向けて検討を実施した。	局ポータルサイトを活用し、プレス資料をはじめとする局内資料の情報共有を行った。今後も局内で共有すべき資料について取組を拡大していく。
4	局内自律改革PTの設置	自律改革の取組を推進していくために、局内自律改革PTを設置	各部における自律改革の旗振り役として、自律改革推進担当を設置し、局全体で自律改革に向けて推進する体制を構築する。	○平成30年度は若手職員PTを設立し、日常の業務における課題等を整理、自律改革の種となるアイデアを発掘した。 ○若手職員PTのアイデア(打合わせスペースの予約の電子化)を実行し、業務の改善を図った。
5	職員参画による自律改革の検討	事業が多分野に渡ることから、各部所間での問題意識の共有を図りづらい状況であった。また部所や職層を超えた局一体の取組、職員の参画を促進する仕組みが必要であった。	○一人一人が「減らす」ことについて考え、「減らす」の良さを発見する、減らす▲(参画)プロジェクトを始動した。 ○全職員アンケート(減らしたいモノ・コトを記載)を実施。アンケート結果を基に、主任級検討会を開催した。	全職員アンケート結果を集約後、モノを減らす、手順を減らす、作業を減らすなどテーマごとにグループを分け、主任級検討会を開催し、今後に向けての取組の検討を行った。今後も職員の参画を促し、取組を推進していく。
6	効率的な会議運営	日々の会議や打合せは、紙資料で行われており、会議準備等の効率化等が図られていない。また、映像等を活用した打合せを実施できいなかった。	会議室の規模、位置、打合せの実績等を考慮して、モニター設置について検討を行った。	会議室・打合せコーナーに計4台のモニターを設置し、ペーパーレス化の推進を図った。映像等を活用した効率的な会議も実施されるようになった。引き続き、効果的な会議運営に取り組んでいく。

7	ホームページの閲覧性向上	東京2020大会に関連して、庁内各局が行っている事業について、当局からの情報発信が効果的にできていなかった。	東京2020大会に関連して庁内各局が行っている事業として、何が該当するか、各局へ調査、検討した。	庁内各局が実施している東京2020大会関連事業について、当局HPに新規ページをつくり情報発信を行った。
8	超過勤務の縮減	超過勤務時間数が多い状況にある当局において、様々な働き方の活用により超過勤務の縮減を図る必要がある。	局全体で超過勤務縮減の取組を進めるほか、部単位で目標数値の設定や自律的な取組を進める。	超過勤務縮減に向けた取組は確実に進めているものの、依然として超勤時間が高い状況となっている。来年度も引き続き、超過勤務縮減に向けた取組を進める。
9	都立スポーツ施設における利用者の声掲載	利用者から頂いた要望等及びその回答について、館内に掲載していない施設があった。	指定管理者とのパートナーシップ会議等を通じて、利用者ニーズをくみ取り、都と指定管理者が連携して施設の魅力向上を図るPDCAサイクルを構築する。	パートナーシップ会議等を通じて、全施設で利用者の声や改善策、アンケート結果等を公表し、施設のサービス・魅力向上を図った。引き続き、パートナーシップ会議等を通じて、各施設の状況を把握し、利用者の声を反映させていく。
10	施設のサービス品質の向上に向けた取組	イベントPR用のポスターやチラシが大量に掲示され、美観を損ねている施設があった。	指定管理者とのパートナーシップ会議等を通じて、課題を共有し、スポーツ施設の館内の美観向上の取組を進める。	所管施設のポスター等掲示物やチラシ等について、期限切れのものを取り除き、貼り出すものを取捨選択するなどの見直しを実施。引き続き、パートナーシップ会議等を通じて、各施設の状況を把握し、館内の美観向上に努めていく。
11	RPAによる作業自動化	主に局職員（特に派遣職員）に係る内部管理業務において、職員数に比例して単純反復作業が増加しており、事務処理の見直し等業務改善が必要となっている。	総務局が実施している「RPAによる作業自動化の実証実験」の試行職場として、単純反復作業にRPAを活用し、業務の効率化を図る。	RPAに使用するシナリオの作成について、プログラミングの知識等がない初心者にとってはかなり難易度が高いものであり、事業者の協力を得ながら試行錯誤して作成したため、かなりの時間を要した。一方、完成したシナリオを業務に適用した結果として、当該業務に係る職員の作業時間を削減することができた。また、RPA処理部分は人的ミスが回避できるため、職員は成果物の事後確認に注力できるなど、業務の質の確保にもつながった。